

「新薬」続々

L.T.) 2阻害薬

日本糖尿病学会専門医の
「しんクリニック」(東京都
大田区)の辛浩基院長(写真)

食欲の秋、旬の味覚に舌鼓
を打たたいが、食べ過ぎによる
血糖値の上昇にご用心。11
月17日は全国糖尿病週間だ。
国内では予備軍も含めて22
00万人もいるときれる糖尿病。
治療薬はすでにいろいろ
あるものの、年内もしくは年
明けに登場すると予測される
新薬が、現在、注目の的になっ
ている。専門医に話を聞いた。

来春に保険適用

生活習慣病に関わる2型糖尿病
では、血糖を抑制するインスリンの働きが悪くなり、
インスリンの分泌も低下し、
血糖値の上昇を食い止めるこ
とができなくなる。従来の糖尿
病の飲み薬では、インスリ
ン分泌の促進、腸管からの糖
の吸収の遅延、肝臓における
糖の生成を抑制するなど、さ
まざまな種類があった。
ただし、意識障害などを引き

近々登場予定の「ナトリウム
・グルコース共輸送体(SG



糖尿病治療が 画期的に変わる

余分な糖を排出する」とあるそ
うだ。
「従来の薬は、体内での糖
を利用促進、あるいは、吸収
抑制という作用でした。ところが、SGLT2阻害剤は、
治療薬として保険適用される
見込みです」と言う。

尿から糖を排出

人間の身体には、尿に含まれる糖を腎臓で再吸収する仕組みがある。糖尿病の人は、もともと体内的糖が過剰な状態。

腎臓で糖が再吸収されると、高血糖を後押しすることになる。SGLT2阻害薬は腎臓で糖を再吸収する輸送体の働きを阻害し、尿中に

食事制限不要!

一般的に2型糖尿病の人
は、厳しい食事制限を強いら
れる。しかし、尿からどんどん糖が出る新薬が登場する
と、食事制限の中身が変わ
可能性もあるのだ。もうひとつ、辛院長によれば、糖尿病

の恩恵を受けることはできな
い。それを一変させるのが、
さまざまな種類があった。
ただし、意識障害などを引
く起こそ低血糖の副作用の問題などもあり、誰もが飲み薬の恩恵を受けることはできない。

「基本は食生活の見直しです。従来の治療薬でも、十分に効果が得られている人もいます。結果として、治療薬が

余分な糖は尿へ、余分な脂肪は便へ。食欲コントロールが難しい2型糖尿病の人にとっては、新薬による体重減少と血糖値の正常化への期待が膨らみそう。ただし、新薬には適用があって、誰もが活用できるようになるわけではない。

院長)

「余分な脂肪を便中に排出する作用があり、3カ月で約5キロ減量した人も見られるようだ。糖尿病のインスリン抵抗性も改善されるなど、やはり注目度が高い。将来的には、食事の概念も変えかねない薬だと思います」(辛院長)